

ここが問題！リニア新幹線

2015. 5. 12発行 NO. 32 リニア新幹線を考える東京・神奈川連絡会 web-asao.jp/hp/linear

麻生区片平非常口(鶴川総合運動場)は2016年度上期着工か？

～ 4月30日建設通信新聞が報道 ～



(青学町田グラウンド～大学HPより)



鶴川総合運動場
〔東京・神奈川連絡会撮影〕

東海旅客鉄道(JR東海)が2027年度開業を目指すリニア中央新幹線(品川～名古屋間)のうち、東京町田市～相模原市間のトンネル区間では、大深度シールドトンネル工事の発進立坑となる町田市小野路町付近の非常口工事に、早ければ15年度下期にも着手する見通しだ。非常口の掘削後、名古屋方面の神奈川駅に向けたトンネル掘削を先行して18年度から着工し、1年後の19年度からは東京方面に向けたトンネルを掘り進める予定だ。JR東海では同区間の工事を鉄道建設・運輸施設整備支援機構に委託していることから、同機構からWTO(世界貿易機関)対象として工事発注される公算が大きい。(※)

町田市～相模原市間のトンネル区間は、町田市内と、市境から神奈川県駅(相模原市)までの相模原市合わせた約12km。トンネルは、内空が直径13m、内径有効断面面積74㎡で計画している。このうち、町田市内約9.9kmは、大部分が大深度地下となる。また、多摩都市計画道路3・1・6号(南多摩尾根幹線)から西側は、神奈川県駅を考慮して浅深度の地下トンネルになる。

トンネル換気や異常時の避難などに利用する非常口は直径30m。同区間には、▽川崎市麻生区片平と町田市能ヶ谷7丁目の境界付近▽小野路町付近▽上小山田付近一の3カ所を計画。このうち、青山学院町田グラウンドに計画している小野路町付近の非常口が、シールド機の発進立坑になる。非常口工事は15年度下期に着工し、工期は2年半を見込む。神奈川県駅に向けたシールドトンネル工事は、18年度に着工し、上小山田付近の非常口を通過して神奈川県駅の到達立坑に向って掘り進める。工期は約8年半を見込む。一方、東京川に向かうシールドトンネル工事は、19年度に着手し、6年半の工期を見込んでいる。このほか、鶴川総合運動場に計画している片平・能ヶ谷付近非常口の工事は16年度上期、町田市有地に計画の小山田付近非常口工事を同年度下期にそれぞれ着手する見通しだ。

南多摩尾根幹線を境にして、東側の大深度地下使用認可区間は大深度地下を利用し、西側の浅深度区間は地上権を設定する模様だ。大深度地下トンネルの通貨箇所では井戸調査を予定。一方、浅井深度区間は、地域ごとの事業説明会、中心線測量、行政機関などとの設計協議、用地説明、用地測量、権利設定、地域での工事説明会という手順で進めていく。

JR東海は、神奈川県駅部を除く同トンネル区間約12kmのほか、山梨県の甲府盆地の地上区間(駅部を除く)約17kmと、長野～岐阜間の中央アルプスなどのトンネル区間約29kmの3区間を鉄道・運輸機構に委託している。(以上、建設通信新聞 web 記事全文)

(※WTO対象・・・基準額以上の公共工事について、外国企業も参入できるように定められている事業)

リニア新幹線工事や残土問題で川崎市長、神奈川県知事に申し入れ

・・・4月23日 公害被害者総行動40周年神奈川共同行動（申し入れ書はHPに掲載）

「川崎市内のリニア工事は簡単にはいかない、着工には時間がかかる」

午前11時半～川崎市まちづくり局交通政策室鉄道施設対策担当との交渉

<JR東海による事業説明会の実施について>

市「工事説明会を開くと言っているのに、具体的な説明があるのでは」

<説明会では問題が明らかにされない。個々の工事説明会ではなく、その前に、残されている課題について、本来なら市が主催し、有識者や市民を含めた公聴会を開くべきではないか>

<期成同盟会に入ってますよね>

市「市長会に入っているのに、期成同盟会でささやかな協力というか、それをしているだけ。会費も5千円だ」

<でも、知事や相模原市はリニアに協力すると言っていますよね>

市「川崎市は協力するとは言っていない」

<新横浜停車ののぞみ(1時間11本)はリニアが開業すれば3分の1になる。不便になる。川崎市が水利権を持っている相模川の支流では水涸れが起きている。リニアの工事で300万トンのCO2が発生する。市民生活が守れない>

<等々力の非常口工事の後周辺を緑化するという。説明会でJR東海はその緑地を市民は利用できないと言っている。迷惑施設をつくるだけで、住民のことは考えていない>

市「市としては、あそこは都市計画で緑地保全地区になっている。建設緑政局が注文をつけるのでは」

<JR東海からの要請で、港湾局が残土を運ぶ港湾調査をして、3月中旬に中間報告をすることになっていたのでは>

市「遅れている。5月には港湾局が公表するのでは」

<梶ヶ谷から貨車で運んだ場合、残土を全て運べるのか。また、港へは直接運べるのか>

市「結構、ダイヤも混んでいる。その点についてはJR東海とJR貨物、武蔵野線を所有しているJR東日本が話をしているのでは。バースは民間のところを使うことになるのでは。引き込み線があり、直接港まで運ぶことは可能だ」

<大深度地下工事の申請はいつごろか、そして川崎市内のリニア工事はいつごろ始まるのか>

市「立坑の工事を始めてから大深度工事の承認申請をするのではと考えている。大深度地下工事の申請やその工事は短期間ではできない。(年内かという問いに)そんな単位ではない。この先年単位になるのではないか。1年とか2年後とか、そういうことだ。大深度工事にはかなり詳細な内容が求められるので」

「残土処理、まだ7割は決まっていない。駅周辺整備費は相模原市の負担」

午後3時半～神奈川県県土整備局環境共生都市部交通企画課リニアチームとの交渉

<県内のリニア工事の残土処理計画の現状は？>

県「1140万立方メートルのうち360万m³は鳥屋車両基地の造成に使うということで、残りは未定だと聞いている。他の公共事業やJR東海の事業に使うということではないか」

<県民の土地を強制収用するのは県の仕事か？>

県「県として地権者との折衝にあたるが、収用委員会に申請して収用するのはJR東海だ」

<全幹法では測量などは強制的に可能なようになっているが、それは許されない>

県「無断で立ち入ることはできないと考える」

<橋本新駅の周辺整備について、その費用は地元負担とある。整備費用と負担は県と相模原市が負担するのか？>

県「相模原市が負担する。まちづくりのための整備ということで国の交付金もある」

<のぞみのリニア移行で新横浜駅はすたれる。それで横浜商工会議所はリニアに反対の意向を表明している>

県「正式ダイヤは開業時に明らかにされると聞いており、のぞみの3分の2がリニアに移るという公式な発表は無い」

等々力非常口予定地
(4月23日撮影)



リニア関連書籍紹介……………(★は編集部推薦)

<研究者によるもの>

- 『健康を脅かす電磁波』荻野晃也（1996年、緑風出版）
- 『早わかり 大深度地下使用法の解説』大深度地下利用研究会編著（2000年、大成出版社）
- 『必要か、リニア新幹線』橋山禮治郎著（2011年、岩波書店）★
- 『鉄道は生き残れるか』福井義高著（2012年、中央経済社）
- 『地下水は語る』守田優著（2012年、岩波新書）★
- 『新幹線とナショナリズム』藤井聡著（2013年、集英社新書）
- 『危ないリニア新幹線』リニア・市民ネット編著（2013年、緑風出版）★
- 『電磁気学のABC』福島肇著（2013年第5刷、講談社ブルーバックス）
- 『リニア新幹線 巨大プロジェクトの「真実」』橋山禮治郎著（2014年、集英社新書）★
- 『公共事業が日本を救う』藤井聡著（2014年、中公新書）
- 『大深度地下使用法 リニア新幹線は本当に開業できるのか！？』平松弘光著（2014年、プログレス）★
- 『悪夢の超特急 リニア新幹線』樫田秀樹著（2014年、旬報社）★
- 『新幹線の歴史』佐藤信之著（2015年、中公新書）
- 『超電導リニアの謎を解く』村上雅人・小林忍著（2015年、C&R研究所）★
- 『日本の景観～「まほろばの国」の終焉』浅見和彦・川村晃生著（2015年、緑風出版）★

<ジャーナリスト・作家によるもの>

- 『超高速に挑む』碓義朗著（1993年、文藝春秋社）
- 『サイエンスナウ』立花隆著（1996年、朝日新聞社）
- 『電磁波の正体と恐怖』小山寿著（1996年、河出書房新社）
- 『超・新幹線が日本を変える』川島令三著（2008年、KKベストセラーズ）
- 『図解・新世代鉄道の技術』川辺謙一著（2009年、講談社ブルーバックス）
- 『動く大地の鉄道トンネル』峯崎淳著（2011年、交通新聞社）
- 『鉄道の未来学』梅原淳著（2011年、角川新書）★
- 『リニア中央新幹線のすべて』川島令三著（2012年、廣済堂出版）
- 『本当に怖い電磁波の話～身を守るにはどうする』植田武智・加藤やすこ著（2012年、金曜日）★
- 『新幹線とリニア半世紀の挑戦』村串栄一著（2012年、光文社）
- 『新幹線50年の技術史』曾根悟著（講談社2014年、講談社ブルーバックス）★
- 『インフラの呪縛』山岡淳一郎著（2014年、ちくま新書）
- 『鉄道技術の日本史～SLから電車、超電導リニアまで』小島英俊（2015年、中公新書）
- 『日本の景観～「まほろばの国」の終焉』浅見和彦・川村晃生著（2015年、緑風出版）

<国鉄、JRのOBなど関係者によるもの>

- 『整備新幹線とはなにか～地域の活性化と高速交通の将来』三菱総合研究所編（1986年、清文社）
- 『東海道新幹線～その足どりとリニアへの展望』須田寛著（1989年、大正出版）
- 『リニアモーターカー～超電導が21世紀を拓く』京谷好泰著（1990年、NHKブックス）
- 『未完の「国鉄改革」～巨大組織の崩壊と再生』葛西敬之著（2001年、東洋経済新報社）
- 『ここまで来た！超電導リニアモーターカー』鉄道総合研究所編（2006年、交通新聞社）★
- 『巨大地震と高速鉄道 新潟県中越地震を振り返って』2006年、久保村圭助・町田富士夫編著、山海堂）
- 『国鉄改革の真実』葛西敬之著（2007年、中央公論新社）
- 『明日のリーダーのために』葛西敬之著（2010年、文春新書）
- 『須田寛の鉄道ばなし～鉄道営業近代化への挑戦』（2012年、JTBパブリッシング）

山男、リニア新幹線問題で集会

「南アルプスは大丈夫？
～登山者の立場から
リニア新幹線を考える」
5月20日(水)19:00～
モンベル渋谷店5階サロン
「イベントスペース」



参加費 500円

発言：志水哲也さん(山岳ガイド・写真家)
辻村千尋さん(日本自然保護協会)
前島久美さん

(大鹿の100年先を育む会)

司会：山田哲也(山岳ガイド、「風の谷」)

連絡先：03-3752-4717(橋本)

南アルプスのど真ん中、大井川源流直下500mの地下をリニア新幹線が通る。山梨県側は早川町の伝付峠の登山口・新倉、長野県側は赤石岳小渋川ルート登山口・大鹿村釜沢がそれぞれ基点になる。富士川から天竜川まで50kmのトンネルが掘られる。このまま、長大トンネルが掘られていいのか。

川崎市議会にリニア関連の3陳情を再提出

東京・神奈川連絡会は、昨年11月から12つきかけて、川崎市議会議長あてに、3件の陳情書を提出し、今年3月、市議会まちづくり委員会と環境委員会で審議が行われ、いずれも継続審議となりました。ところが、4月12日に市議会議員選挙が行われ、新しい議員による委員会構成になるため、事実上の廃案の扱いを受けました。継続審議・廃案とも私たちにとって理不尽な扱いですが、改めて5月14日に、市議会議長あてに3件の陳情を再提出します。市議会の正副議長や委員会の顔ぶれは5月下旬に決まると言うことです。

★「中央新幹線川崎保全事務所の設置をJR東海に求める陳情」

★「リニア新幹線工事、発生土の貨物列車での一時運び先など地位交通への負荷調査及び地域住民への説明会の開催を求める陳情」

★「リニア新幹線工事、発生土(残土置き場と処理費用の明確化及び発生土置き場のアセス

リニア立木トラストに15人参加

「リニア計画はずさんなアセスと不十分な説明のまま着工することは許されません。私たちはこれまで、さまざまな手段で反対の意思を表明してきましたが、JR東海は聞く耳を持ちません。そこで、建設阻止の意志を貫くために、リニア計画路線の直下及び、山梨保守基地一帯の桑畑で立ち木トラストを実施することにしました。立ち木トラストは、樹木の財産権、所有権を有志の方々が分有し、その権利を主張することによって事業計画の阻止や遅延を図る合法的行為です。その一本一本の所有者になっていただくようお願いいたします」(リニア・市民ネット山梨の呼びかけ)。

これに応え、全体(400本)のうち、東京・神奈川連絡会に要請のあった15本について、トラスト参加を呼び掛けたところ、

以下17名の方々から
応募がありました。(敬
称略)山田昌郎、



山田加寿子、矢沢美也、
伊藤清美、勝田政吾、
山本太三雄、西村光子、
小西邦弘、鈴木宏子、塚本昭二郎、
天野捷一、水上和恵、猪股美恵、田多準司、
野副達司、三枝 豪、瀬川千恵

(桑の木、実)

リニア着工を許さない沿線住民怒りの集会

5月17日(日)13:30～16:30

会場：びゅあ総合

(山梨男女共同参画推進センター)大研修室

基調講演『住民運動とリニア』榎田秀樹さん

大鹿村の住民によるコント、沿線各地のグループから報告も。(055-252-02

ここが問題！リニア新幹線NEWS NO. 32

発行：リニア新幹線を考える東京・神奈川連絡会

天野捷一(中原・高津)090-3910-8173

山本太三雄(宮前) 090-8775-1879

矢沢美也(麻生・多摩)090-6108-6568